

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人 日本消化器内視鏡学会
理事長 井上 晴洋

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
- a. 特に学術的に重要と考えられるもの
→2016年度から継続してAMED研究事業を受託しており、2018年度から2020年度にかけて受託した研究課題「内視鏡統合データベースと連携する内視鏡診療領域におけるAIプロトタイプ開発と実装に向けたICT基盤整備」に対する事後評価においては、8.3という高い評価をいただきました。
- b. 当該領域における国際的な役割
→AIを用いた消化器内視鏡診断補助が実現することで、日本の高度な消化器内視鏡診断技術を、新興国に早く広く広げることにつながると考えております。
- c. 活動からもたらされる社会的な意義
→本学会では、大規模データベースプロジェクトであるJED Projectを推進しています。
JED Projectは、日本全国の内視鏡関連手技・治療情報を登録し、集計・分析することで医療の質の向上に役立て、患者に最善の医療を提供することを目指しています。
このような内視鏡関連手技の全国規模の情報集積は初めての試みであり、患者側だけでなく、医療を提供する側にも大きな利益をもたらすものであると考えています。
JEDを行う3つの理由は、下記の通りです。
- ①世界最大の内視鏡診療データベースの構築
—日本の内視鏡診療の実態を把握する—
 - ②臨床研究レジストリーのデータ化
—標準化された高度な臨床研究の実現—
 - ③医師の診療実績の精確な把握
—専門医制度への効果的な対応—
- JED Projectで集められたデータを分析することで、以下のことを明らかにします。
- ・内視鏡関連手技を行っている施設診療科の特徴
 - ・医療水準の評価
 - ・適正な消化器内視鏡専門医、消化器内視鏡技師、看護師の適正な配置
 - ・早期癌登録に対する精確な情報収集

- ・内視鏡検査、治療を受けた方の予後
- ・内視鏡検査、治療の医療経済的な情報収集
- ・これから内視鏡関連手技を受ける方の死亡・合併症の危険性予知

これにより、各施設には自施設の特徴や課題をはっきりと理解した上で、改善に取り組むことを可能にし、施設単位だけではなく、医療圏レベル、地域レベル、全国レベルで医療の水準を明らかにする事で、地域単位、国単位での比較を可能にすることを目的としています。

また、内視鏡関連手技にともなうリスクを理解した上で、患者、患者家族と共に手術・治療の方針を決定する事にも役立つと考えています。

d. 学会運営上留意している点

→大規模データベースである JED の普及にあたっては、JED のサーバシステムの運用と管理を行う一般社団法人 JED 研究機構を立ち上げました。また JED に参加しやすくするために、無料ソフトである「JED Maker」や「どこでも JED」を開発し要望のあった施設へ無償で配布しています。ソフトの使用にあたっては専門のコールセンターを設けるなどして、参加施設への様々な配慮を心掛けています。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

→本学会が受託した AMED 事業においては、他の学会（放射線学会・眼科学会・病理学会・皮膚科学会・超音波学会）と連携を図りながら研究を推進してまいりました。

以上